

ちくまプリマーブックス 41

Take It Easy

悩んでなんぼの
青春よ 森 毅



筑摩書房

悩んでなんぼの青春よ

NDC159.7/217pp/19cm/B 6 判

*

森 毅（もり・つよし）

1928年東京都に生まれる。東京大学数学科卒業。京都大学名誉教授。フリーター。著書は『居なりのすすめ』『頭をオシャレに』『ものぐさのすすめ』（ちくま文庫）など多数。

*

1990年 7 月 5 日 第 1 刷発行

1996年 4 月20日 第 6 刷発行

著 者 ^{もり}森 ^{つよし}毅

発行者 ^{もり}森 ^{もと}本 ^{まさ}政 ^{ひこ}彦

発行所 ^{ちく}筑 ^ま摩 ^{しよ}書 ^{ぼう}房

東京都台東区蔵前2-5-3

振替 00160—8—4123

装幀者 南 伸坊

三松堂印刷 積信堂製本

© 1990 T. Mori

Printed in Japan

ISBN 4-480-04141-9 C8336

ご注文・お問い合わせ、及び乱丁・落丁本の交換は下記宛へ。

〒331 大宮市櫛引町2-604 筑摩書房サービスセンター

TEL 048-651-0053

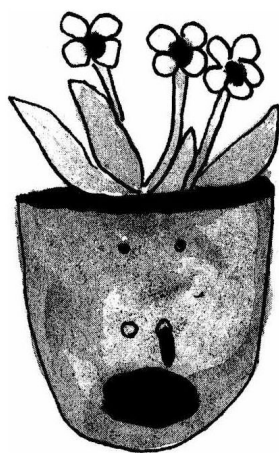
悩んでなんぼの青春よ⑬ 目次

頭が悪いのはなおらないか	3
正しいおカネの使い方とは	45
この道ひとすじに生くべきか	85
踏まれたものの痛みがわかるか	135
ラクでおトクな生き方は	181
あとがき	215

悩んでなんぼの青春よ

イラストレーション ● 古内ヨシ

頭が悪いのはなおらないか



ニブい自慢^{じまん}

このごろの入試改革論議で、「よい学生がとれた」のたぐいが言われすぎね。学校ちゆうところは、アホを入れてかしこうするところのはずなのに、かしこいの入れてアホにするんかな。それに人間には持つて生まれた素質がきまつてる、みたいなへんな才能^{しんこう}信仰があるね。かしこいというのは、どういふことかというのもようわからないけど。

前、新聞の身の上相談をしていたとき、こういうのがあった。「自分で言うのはおかしいけれども、うちの娘^{むすめ}はものすごくかしこい。幼稚園^{ようちえん}のころから、楽しみですねと言われた。ちよっとヒントがあるとすぐにひらめくし、サッサ、サッサとやる。小学校三年生。ところが、成績はもうひとつよくない。世間では、かしこければ成績がいいはずだという。どういふものでしょう」。

（かしこいというのは、本当は「頭が器用」というほうが、正しいと思う。）ぼく自身もわりと器用さはあったほうだけど、器用というのは、ものわかりが早いとか、反応が早

いとか、ちょっと憶おぼえるのが得意とか。

音楽が器用とか、絵が器用っていう子いるでしょう。リズムとるのがうまいとか、メロディーをすぐ憶えるとか。器用なほうが、いちおうは世渡よわたりに得なんじゃないの。たとえばスタジオミュージシャンになるときに、そのほうがいくらか有利かもしれない。だけど、器用な子がいいアーティストになるとはかぎらない。それは当然。不器用なくせに、なんとなくそれなりに味が出て、おもしろいというのもある。

頭の器用というの、ちょっと似たような感じがしてる。大学あたりに行くと、頭の器用だったやつっていうのが圧倒あつとうてき的に多いわけ。かしこいというのは、ぜったい自慢じまんにならない。うんと器用なやつは「あいつは器用や」いうてみんなにひやかされる。それでニブいというと自慢になる。大学の教師なんかしてるというのは、かなりかしこいほうだけど、ニブいことを自慢しあうという、奇妙きみょうな感じ。たしかに、ニブいので有名な友だちもいる。東大教授で。そいつの専門に近いやつがいうには、なんか新しいことが出てきても、あいつはなかなか納得なっとくしやらへん。ところが一年か二年してから、ひどくちゃんとわかる。ニブいので、世界的に有名なのは、アメリカにいるフリードリックス

という人で、何いうても話を通じない。これも大数学者だけど、このおじいさんボケた
んかなと。ところが、二、三年すると、通じなかったアイディアを、ものすごくうまく
使っている仕事をするというので、世界的に通ってる。

なんか、ものわかりのいいというのは、やっぱりするんでしょね。理解が表面的
になって。ニブいやつは、なんとなくわかり方にコクが出てくるわけ。器用なことであ
ぶなさというのは、いつでもススッとわかるくせがついてるから、わからんままでか
かえておくのがヘタになる。どっちみちそれは必要なのね、そのうちわかるわいうてか
かえておかなきゃあない。だから、器用だからええとはかぎらんね。

才能はいつ花ひらく

それから、大学の中でとくに器用そうなやつに聞いてまわると、小学校や中学校のこ
ろ成績が悪かったやつが多い。しかし受験なんかでは、その器用さを生かして、なんと
かなったりするんだけど、ふだんは頭が器用だけに、学校の成績を上げるといふよう

なことは、あほらしくてせえへんわけ。

だいたい頭の器用な子は関心がいろいろ拡散するのよ。だから学校のこと以外に、ちよつと大人^{おとな}っぽいことなんかちよつかい出してみたいするというのは、まあ器用やからやりやすいのね、当然。

器用のよさみたいのものもある。不器用なのはやっぱり落ちこみやすいわけ。ほかのやつがスイスイわかるのに、ちよつと遅^{おそ}れたり、それでドジッたり。そうすると、やっぱりこれつらいとこで、不器用やからせめて成績がいいと安心するというようなね。それで友だちがいうたけど、「かしこいくせにええ点とるちゅうのは、どあつかましいでえ」って。かしこかったら、点ぐらい悪うてもええやないのって。

器用な子はそれでええんやと思うね。成績が悪うて困るかいいうたら、もともと根が器用やねんから、ふだんの成績が悪うても入学試験だけ強かったりする——ぼくなんかはそうやったけどね、やっぱり。昔そういう型はようあったよ。毎学期ええ点とって、その上に入学試験もええというように一致^{いっち}せんならんというのはきつい。とくに大学入試というのは、一回きりのイベントやからね。一発あてたらええねん。

ただ、才能というのもこれまたわからんもんだよ。

若いころは、ペーパーテストではようわからんけど、いろいろおしゃべりすると、だいたい才能がわかると信じてた。なんか反応が早かったり、ものわかりがよかったり、ちゃんとこっちに受け答えしてくれたり。こいつはええなあと思うたわけ。そういうのはいわゆる頭が器用な子ね。もちろんそれも悪くない。若いときから花を咲かせるという感じ。ところがずっと見てると、花は咲かせるにしても、まあそんなもんよというやつがおる。

いっぽう、あいつ大学院に行つて研究者になるいうとるけど、向かへんのとちがうか、なんかドジやしなあっていうやつが、意外に十年ぐらいうるとバツと大輪の花を咲かせることがある。だから、十年たたと才能わからへんという感じ。ただしこれも、実はつらいところがあつて、十年たてばかならず花がひらくとはかぎらない。それから、二十年ひらかないと、まずひらかない。しかし二年や三年ではわからない。才能というものが決まつて、それではじめからわかるとかいうのは、うそ。人間変わるしね。

大学はムダだから

最近もっぱらとなえてるのが「実体が空洞化くうどうかした場合は、幻想げんそうが肥大化する」という定理。これはいろんなところに使える。いま、先はどうなるかわからん、というふうに、不安定になっているでしょう。流動性がふえてる。そうすると、かならず精神的安定を求めるために幻想を対置するのね。

単純な例でいうと、臨教審りんきょうしんが学歴の価値は実質的には少なくなつて、心理的なものとして強まつてると書いて、ものすごくたたかれたでしょう。だけどあれは、そうにきまつとるんや、論理的には。だいたい昔にくらべたらいま大学出るやついっぱいおるからね。特権というのは、少数やから得するわけ。それで、これだけ大学生が多いから、「大学出てなんぼのもんや」ということになるにきまつとるわけ。じゃあ東大出たらええかといったって、東大や京大いうたって、昔にくらべたら一ヶタふえてるからね。だから少数特権ということば、どう考えてもあるはずない。

ちなみに、東大出たために損する人がいるという話あるでしょう。知らん？ ひとつは、しょうもない話だけど、「おれは東大出たのにこんな職場じゃ気に入らん」とか、「こんなかみさんじゃ気に入らん」とか、一生東大が後ろにくっついて不幸な一生をおくるといふケースがあるわけ。そんなやつは、だいたい東大出る資格ないけどね。そんな東大にこだわるようなやつは、東大入ったら不幸のもとになるから、そうならん人だけが東大へ入ってほしいと思うけど。

もうひとつは、そりゃ東大出たってドジすることあるでしょう。それでいままでのウラミがあるだけに、あれでも東大出てるのよといわれて、いじめられっ子になるタイプ。まあ、それはさておいて。

昔にくらべると、新しい知識がどんどんふえてるでしょう。一番単純なのは技術畑ですね。昔から、一般教育はムダやてよいいよる。おれは一般教育の教師やからいうけど、あれはムダよ。ほんまにムダ。しかし、専門教育はもっとムダ。だって専門教育は、十年もしたら変わっちゃうからね。だいたい大学というのはムダなんや。昔やと、さすがは帝大出た方で、学識ていだいがありまして、とかいうような感じで、長持ちしたんよ。学校で

教わったことというのはこのごろ長持ちしない。だからどれだけ新しく文化を獲得する能力があるかのほうが問題で、大学のときにどれだけ獲得したかは、たいして役に立たない。

学校以外から得る文化情報というのがものすごくふえてる。いい本はいくらもある。たとえば筑摩書房の教科書だけに頼るよりは、筑摩書房から出るいろんな本を読んだほうがかしこくなれるで。本を買わんでもラジオかテレビ聞いたって、けっこういいもんあるしね。したら、学校の実質的な価値というのはへってるよね。それに反比例して心理的な価値は明らかにものすごく重くなってる。いまどんどん。学校は人生にとって決定的みたいに思われてるわけ。

これは自然なことやと思うね。さっきの定理で、実質が空洞化すると、幻想に頼ってバランスとろうと思うんよ。先のほうがいろいろわからんと心配やから。

つまりたとえば「人間の一生なんて学歴よりは学校を出てからでまゐるんや」といわれると、不確定な部分が大部分ということになるでしょう。そうすると、せまい、確定した部分をものすごく重んじて、精神的なバランスをとる。ばくは学歴問題の構造、学

校が非常に重んじられる構造というのは、そういう種類のもんやと思う。

数学ができない呪われた血

不確定なものを確定した幻想^{げんそう}に変えようと、才能信仰^{しんこう}と努力信仰^{しんこう}というのが、両方あって、なんか才能できまるとか、努力できまるとか、「なんとかできまる」というのがものすごく多い。そんなものきまらへんで。

あれは裏腹みたいでしょ。「数学なんかは生まれつきの才能や」てなことってね。そういうとぐあい悪いから、今度は、努力すれば何事もなるとか。なせばなる。あれものすごく損なのね。才能かもしれんけど、その才能というものは十年たたとわからへんから、何が才能かわからへんわけよ。これは、そういう不確定な部分がこわいから、確定性を求めたがるのよ。

だいたい、このごろ、因果関係を求めたがる傾向^{けいこう}強いでしょう。オカルトの流行も、ぼくはそれやと思う。あれは科学的合理主義を知らんからというのはうそでね、あれは

悪い意味での科学主義。なんでも科学で解決できるはずやというふうな、因果関係でものごとに決着をつけたがるという意味での科学主義。その鏡像みたいな感じがする。なんか理由つけると安心するわけよ。一番あほらしいのは、「数学できないのは、おかあちゃんもできなかった。血が悪い」。おかあちゃんのせいにできるからね。芸術なんかでもあやしいと思うけど、本当に遺伝かどうか。

環境は大きい。このごろ作家でも二代目が多いでしょう。あれは、世間が均質化してのために、二代目が有利になつてゐるのかもしれない。

いちばん極端なのは、古典芸能。二十歳近くなつて義太夫が好きやからといって入つても、身につかないでしょう。ところがその太夫の家に生まれたりすると、子どものときから知っている。歌舞伎なんかでも明らかにそうやと思うね。御曹司は有利なんよ、ほんとに。耳で憶えたり、雰囲気で憶える。

作家なんかの場合でも、二代目というのは、編集者がウジャウジャいうてゐるのを聞いて、ものを書いたりするコツみたいなのを知つてゐるでしょう。それは学校の作文の宿題の雰囲気とぜんぜんちがうよね。だからものを書くというのは、どういふもんやとい